

SHIMOTORI CO.,LTD

スポーツフロアメンテナンス

～スポーツ競技に適したより良い環境へ～





目次

こんなことありませんか？！

具体的な不具合例！！

2

さまざまな場所で採用されています。

採用される理由について解説します

3

メンテナンスコストについて？

ライフサイクルコストの低減・平準化を図るためには

7

各種補修状況

施工状況写真から実際の改修工事を解説

8

現場に合わせたより良いメンテナンスのご提案しています

弊社ではスポーツフロア及び体育設備メンテナンスの自社施工が可能です、幅広い視点で解決策を提案しています。

9

各種実績

弊社で工事した実績を記載、詳しい内容を掲載しています。

10



バスケットボール器具ワイヤー修繕 (2012)

吊り下固定式バスケットコート

の処置をとった。



写真でも分かるように、
るための

いままでは。

バスケットゴールは一度設置されるとなかなか
取り替え・補修を行わないため、かなり古く劣化
が目立つものが多くあります。



修繕作業は

作業となるので、気の抜けない作
業が続きました。



作業終了です。

なりました。

最近では、体育館の耐震化と合わせてバスケット
ゴールの点検・修理を行う施設が増えてきて
います。また、毎日頻繁に上げ下げするゴールで
すので、定期的な部品の交換が大事です。

バスケットボールライン改線 (2012)

バスケットボール・コートラインを新ルールラインへ部分書き換え工事を行った。
ワックスが何層にも掛けられており、塗料の密着力・グリップ力が重要となった。



施工前です。

白のラインがバスケットボールコートです。
ライン書き換え工事の場合、フローの状態が常
に異なるため技術・経験値が必要となります。
今回、塗装範囲内のワックスを除去することで、
塗料の密着を高めることができました。



新ライン塗装状況です。

弊社では、新ラインの目荒らしの後、ウレタンの下
塗りをしてから、ライン塗装を行っております。
それにより、仕上がりはもちろん、より一層塗膜の
密着度を高めることができます。



完了です。

旧ラインがほぼ目立たない仕上がりとなりました。
部分書き換え工事は、工事に基準がなく、各業
者は独自での施工スタイルとなっており、仕上がり
もバラバラとなっています。また、ラインの密着性
においては母材の材質の違いや塗膜の新旧、ワ
ックスが完全に除去されているかなどの判断が
必要となります。



012)

工事の日程が多く取れず、最小限のメンテナンスをという要望があり、塗装の傷みが比較的小さかったことから、



やっていない
 ということでしたが、歩行頻度の低い壁周辺には
 除去からと
 になりました。

は、使用方法が適切
 でないと、床材の反り・ を引き起こしてし
 まいますので、注意が必要です。



不十分ですと、
 塗料が密着せずに剥がれ等が生じてしまいま
 す。
 写真は、

綺麗に清掃したら、
 粉です。
 塗りです。



完了です。
 施工は、2日間でした。
 日常の

長く保つ事となりました。

(2012)

バスケットボールの部分書き換えと共に、
 は一切掛けておらず

を施した。
 していた。



りという
 工程です。
 制限区域内は全面を新たに緑で塗りつぶしまし
 た。



ウレタン塗装1回目・ポリッシャー掛け後の清掃状
 況です。
 1回目の塗膜の木の毛羽立ち、ゴミによるぶつを
 取り除きました。
 この作業が、
 大きく影響します。



今回は
 も厚く、良質なメンテナ
 ンスとなりました。
 また、バスケットボール改線においても、
 ということで、違和感なく仕上がりました。